

令和 7 年度 実施設計書

審査 設計者

工事番号
(設計書コード) 37-FE340-04-01-04

建設工事名 令和7年度（市単）瀬古一・三丁目地内マンホール蓋改築工事

路線河川名 建設工事箇所 藤枝市 瀬古一・三丁目 地内

建設工事金額

工 期 令和 7 年 1 2 月 2 6 日限り 週休2日推進工事補正（月単位の週休2日（合計））

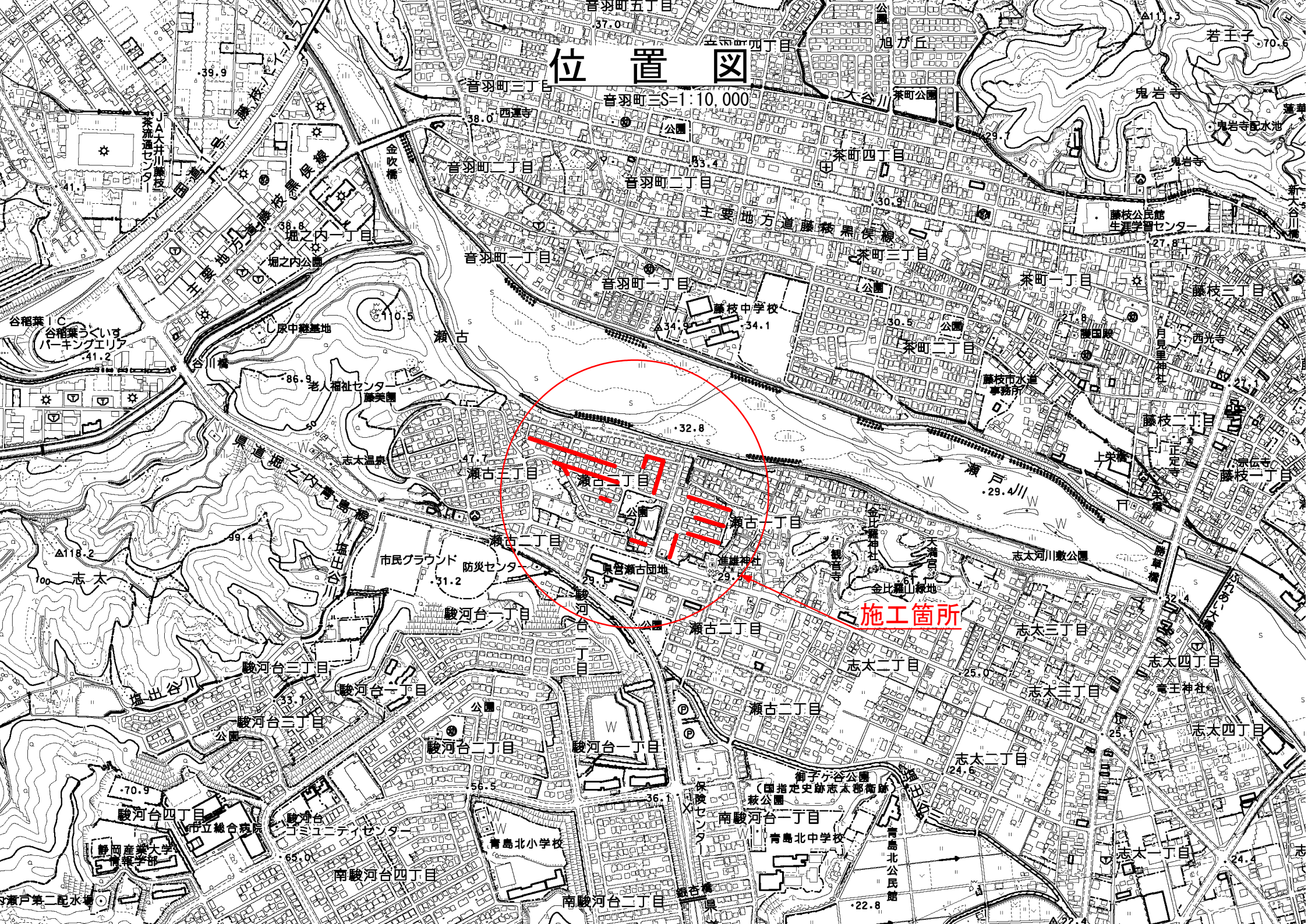
建設工事概要 マンホール蓋改築 32 箇所

歩掛・単価適用年度 令和 7 年 6 月 基本単価 令和 7 年 6 月 地区コード 220 地区

起 終 点 指 定 ⇔

位置図

音羽町S=1:10,000



工 事 費 内 訳 表

区分・工種・種別・細別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
本工事費					
- 管路					
式	1				
-- マンホール工					
式	1				
--- マンホール蓋改築工					
式	1				
---- マンホール蓋改築特殊工法 円形カッター工法 (φ950 t=150mm)					M0001
箇所	32				歩掛見積 第 1号表
---- マンホール蓋材料費					M0006
式	1				第 6号表
---- 現場発生品及び支給品運搬					32(組)×81.3(kg)=2.602(t)
t	2.602				SP 1号表
---- 建設副産物運搬・処分費					M0007
式	1				第 7号表
-- 仮設工					
式	1				

工 事 費 内 訳 表

区分・工種・種別・細別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
--- 交通管理工	式	1			
---- 交通誘導警備員	式	1			第 9号表
直接工事費計					
工種区分 No. 31 下水道工事(2)					
共通仮設費 (一般交通影響有り(2)-2)	式	1			
共通仮設費計					
純工事費計					
現場管理費 (一般交通影響有り(2)-2)	式	1			
工事原価計					

工 事 費 内 訳 表

区分・工種・種別・細別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
一般管理費等 (金銭的保証を必要とする)	式	1			
工事価格計					
消費税相当額	式	1			
請負工事費					

M O O O 1		マンホール蓋改築特殊工法 円形カッター工法 (φ950 t=150mm)			第 1号表	
金	円	1 箇所 当り	歩掛見積			
積 算 項 目		単位	数量	単 価	金 額	摘 要
舗装版切断 φ950 t=150		箇所	1			M0002 歩掛見積 第 2号表
蓋高調整工 掘削深度 t=150		箇所	1			M0003 歩掛見積 第 3号表
舗装復旧工 φ950 t=150		箇所	1			M0004 歩掛見積 第 4号表
施工材料 φ950		箇所	1			M0005 歩掛見積 第 5号表
諸雑費		式	1			
計						

M O O O 2					
舗装版切断 φ950 t=150					
第 2号表					
金	円	1 箇所 当り	歩掛見積		
積 算 項 目	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役					1
	人				
運転手 (特殊)					1
	人				
普通作業員					1
	人				
機械損料 カッター車運転					1
	日				単価見積
カッターブレード損耗費 呼び径φ950					1
	c m	1 5			単価見積
軽油 (カッター車運転) パトロール給油					1
	L	4. 3 2			
ガソリン (発電機100V・2KW) JIS2号 レギュラースタンド					1
	L	1. 0 2			
諸雑費					
	%				

M O O O 2					
第 2号表					
積 算 項 目	単位	数量	単 価	金 額	摘 要
計					

M O O O 3					
蓋高調整工 掘削深度 t=150					
第 3号表					
金 円 1 箇所 当り 歩掛見積					
積 算 項 目	単位	数量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役					1
	人				
運転手 (特殊)					1
	人				
特殊作業員					1
	人				
普通作業員					1
	人				
アンカーボルト設置工					1
	箇所	1			単価見積
機械損料 クレーン付トラック・コンプレッサー					1
	日				単価見積
軽油 (クレーン付トラック運転) パトロール給油					1
	L	7. 9 2			
軽油 (コンプレッサー運転) パトロール給油					1
	L	2. 6 4			

MO003					
第 3号表					
積 算 項 目	単位	数量	単 価	金 額	摘 要
ガソリン (発電機100V・2KW) JIS2号 レギュラースタンド	L	1.87			1
諸雑費	%				
計					

M O O O 4					
舗装復旧工 φ950 t=150					
第 4号表					
金	円	1 箇所 当り	歩掛見積		
積 算 項 目	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役					1
	人				
特殊作業員					1
	人				
普通作業員					1
	人				
機械損料 振動転圧器・コンパクター					1
	日				単価見積
ガソリン (発電機・コンパクター) JIS2号 レギュラースタンド					1
	L	0. 8			
諸雑費					
	%				
計					

MOOO5					
施工材料 φ950					
第 5号表					
金	円	1 箇所 当り	歩掛見積		
積 算 項 目		単位	数量	単 価	金 額
マンホール用補強鉄筋 D6mm φ600用		個	1		単価見積
無収縮モルタル SFモルタル超速攻性 同等品以上		k g	94		単価見積
表層復旧材（加熱型密粒） ERアスコン 厚t=50mm 同等品以上		k g	49		単価見積
プライマー ERプライマー 同等品以上		k g	0. 3		単価見積
加熱注入式目地材 ゴム化アスファルト系		k g	0. 48		単価見積
切断線処理 セラミックサンド		k g	0. 57		単価見積
As系舗装用成形目地材 セロシール t=30mm 同等品以上		m	2. 98		単価見積
諸雑費		式	1		

M O O O 5					
第 5号表					
積 算 項 目	単位	数量	単 価	金 額	摘 要
計					

M O O O 6 マンホール蓋材料費					
第 6号表					
金 円 1 式 当り					
積 算 項 目	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
次世代型マンホール蓋 (藤枝市型) 車道用 T-25 市章・汚水 文字入り	組	32			
調整金具 0 - 25	組	16			
調整金具 26 - 45	組	16			
転落防止はしご	個	4			
計					

MOOO7 建設副産物運搬・処分費					
第 7号表					
金 円 1 式 当り					
積 算 項 目	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
As殻運搬	m3	0.6			SP 2号表
アスファルト殻処分 セイエン商事(株) 藤枝市稲川891-2	m3	0.6			
無筋Co殻運搬	m3	0.4			SP 3号表
無筋Co殻処分 (株)紅林建材 藤枝市高洲83-5	m3	0.4			
トラック運搬 運搬距離: 30.0km以下	台	1			第 8号表
Asカッター汚泥処分費 マーセリサイクル株式会社 静岡市葵区北2242-129	m3	0.11			
計					

トラック運搬 (DID区間あり)
運搬距離: 30.0 km以下

第 8号表

金 円 1 台 当り					
積 算 項 目	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
トラック運搬 2 t 積	時間				
諸 雑 費	式	1			
計					

施 工 パ ッ ケ ー ジ 区 分 一 覧 表

名 称	内 容	
現場発生品及び支給品運搬	トラック機種＝トラック〔クレーン装置付〕ベーストラック2 t 級、吊能力2. 9 t, D I D 区間の有無＝有り, 片道運搬距離 (k m) ＝1. 5 k m 以下	SP 1 号表
殻運搬	殻発生作業＝舗装版破碎, 積込工法区分＝機械積込 (騒音対策不要, 舗装版厚1 5 c m 以下), D I D 区間の有無＝有り, 運搬距離 (k m) ＝3. 5 k m 以下	SP 2 号表
殻運搬	殻発生作業＝コンクリート (無筋) 構造物とりこわし, 積込工法区分＝機械積込, D I D 区間の有無＝有り, 運搬距離 (k m) ＝5. 7 k m 以下	SP 3 号表

積算基準の「見積参考資料」(1／3)

・この「見積参考資料」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約約款第1条にいう設計図書ではありません。
・この「見積参考資料」の有効期限は、本建設工事の入札日までとします。

建設工事名： 令和7年度(市単)瀬古一・三丁目地内マンホール蓋改築工事
建設工事箇所： 藤枝市 瀬古一・三丁目 地内

本建設工事の工事価格の積算に使用した積算基準は以下のとおりです。

マンホール蓋改築特殊工法		円形カッター工法(φ950 t=150mm)			(1箇所当り)
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
舗装版切断	φ950 t=150	箇所	1		
蓋高調整工	掘削深度 t=150	箇所	1		
舗装復旧工	φ950 t=150	箇所	1		
施工材料	φ950	箇所	1		
諸雑費		式			

舗装版切断		φ950 t=150			(1箇所当り)
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人	0.05		
運転手(特殊)		人	0.09		
普通作業員		人	0.09		
機械損料	カッター車	日	0.09	単価見積	
カッターブレード損耗費	φ950	cm	15	単価見積	
軽油(カッター車運転)	パトロール給油	L	4.32		
ガソリン(発電機100V/2KW)	JIS2号 レギュラースタンド	L	1.02		
諸雑費		%	13	上記合計金額に対する	

積算基準の「見積参考資料」(2/3)

- ・この「見積参考資料」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約約款第1条にいう設計図書ではありません。
- ・この「見積参考資料」の有効期限は、本建設工事の入札日までとします。

建設工事名: 令和7年度(市単)瀬古一・三丁目地内マンホール蓋改築工事
 建設工事箇所: 藤枝市 瀬古一・三丁目 地内

本建設工事の工事価格の積算に使用した積算基準は以下のとおりです。

蓋高調整工		掘削深度 t=150		(1箇所当り)	
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人	0.08		
運転手(特殊)		人	0.17		
特殊作業員		人	0.17		
普通作業員		人	0.34		
アンカーボルト取付工		式	1	単価見積	
機械損料	クレーン付トラック・コンプレッサー	日	0.17	単価見積	
軽油(クレーン付きトラック運転)	パトロール給油	L	7.92		
軽油(コンプレッサー運転)	パトロール給油	L	2.64		
ガソリン(発電機100V・2KW)	JIS2号 レギュラースタンド	L	1.87		
諸雑費		%	13	上記合計金額に対する	

舗装復旧工		φ950 t=150		(1箇所当り)	
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人	0.05		
特殊作業員		人	0.1		
普通作業員		人	0.21		
機械損料	振動転圧機・コンパクター	日	0.1	単価見積	
ガソリン(発電機・コンパクター)	JIS2号 レギュラースタンド	L	0.8		
諸雑費		%	13	上記合計金額に対する	

積算基準の「見積参考資料」(3／3)

- ・この「見積参考資料」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約約款第1条にいう設計図書ではありません。
- ・この「見積参考資料」の有効期限は、本建設工事の入札日までとします。

建設工事名： 令和7年度(市単)瀬古一・三丁目地内マンホール蓋改築工事
建設工事箇所： 藤枝市 瀬古一・三丁目 地内

本建設工事の工事価格の積算に使用した積算基準は以下のとおりです。

施工材料		φ 950	(1箇所当り)		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
マンホール用補強鉄筋	D6mm φ 600用	個	1	単価見積	
無収縮モルタル	SFモルタル超速攻性	kg	94	単価見積	
表層復旧材(加熱型密粒)	ERアスコン 厚t=50mm	kg	49	単価見積	
プライマー塗布	ERプライマー	kg	0.3	単価見積	
加熱注入式目地材	ゴム化アスファルト系	kg	0.48	単価見積	
切断線処理	セラミックサンド	kg	0.57	単価見積	
As系舗装用成型目地材	セロシール t=3mm	m	2.98	単価見積	
諸雑費		式	1		

藤枝市週休２日工事（土木工事）特記仕様書

（目的）

第１条 本特記仕様書は、公共工事の品質確保並びにその担い手の中長期的な育成及び確保が重要な課題となっていることに鑑み、建設現場における休日確保型工事の実施に伴い必要となる経費を適切に計上することにより、週休２日の取得が可能な環境づくりを推進し、その労働環境の改善を目的とする。

（用語の定義）

第２条 この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 対象期間 工事着手日（準備期間を除く。）から工事完成日（後片付け期間を除く。）までの期間のことをいう。ただし、年末年始休暇（６日間）、夏季休暇（３日間）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている期間は含まない。
- (2) 休工日 対象期間において、現場事務所での事務作業を含め１日を通して現場や現場事務所が閉所された日（巡回パトロール・保守点検等、現場管理上必要な作業のみを行う場合は休工日に含む。）をいう。
- (3) 現場閉所率 対象期間における休工日の割合（休工日数／対象期間日数）を百分率で表示したものをいう。
- (4) 月単位の週休２日 対象期間の全ての月において、週休２日の状態をいう。
ただし、土曜日、日曜日の日数の割合が２８．５％に満たない月においては、当該月の土曜日、日曜日の合計日数以上の現場閉所を行っている状態をいう。
- (5) 通期の週休２日 対象期間の現場閉所率が２８．５％以上の状態をいう。

（費用の計上）

第３条 週休２日工事の費用計上は、対象期間中の現場の閉所状況に応じ、静岡県が定める「週休２日推進工事積算要領」の規定に準じ、補正係数を乗じて行うものとする。

（実施方法）

第４条 週休２日工事の実施方法は、次のとおりとする。

- (1) 受注者は、現場着手日までに４週８休以上の休工日取得計画表を監督員に提出しこれに基づき施工を行う。
- (2) 受注者は、計画に変更が生じた場合には、その都度、変更した休工日取得計画表を監督員に提出する。
- (3) 監督員は、受注者に工事記録簿等の資料の提出を求め、休工日及び現場閉所率について確認を行う。なお、４週８休以上の休工日が確保できなかった場合には、静岡県週休２日推進工事（土木工事）実施要領の規定に準じ、現場閉所率に応じた費用計上

による減額変更契約を行うものとする。

(工期設定の条件)

第5条 設定された工期に見込まれている特記事項は、次のとおりとする。

- (1) 雨休率 休日と降雨降雪及び猛暑日数の年間の発生率をいう。この場合において、休日は、日曜日及び土曜日、祝日、年末年始休暇（6日）並びに夏季休暇（3日）とし、降雨降雪及び猛暑日数は地域ごとに算出が困難なため、「0.9」とする。

ただし、猛暑期間（6月～9月）外の工事については、猛暑日を考慮しない雨休率「0.8」とする。

- (2) 工事の性格 () 日
(3) 地域の事情 () 日
(4) 自然条件 () 日
(5) その他 () 日

工事写真の電子データに関する特記仕様書

第1条（工事写真の提出）

当該工事（以下「本工事」という。）の工事写真を電子データの対象とするか否か、受注時に発注者、受注者協議の上、選択できるものとする。対象とした場合に必要な事項を以下のとおり定める。

第2条（工事写真）

工事写真は「写真管理基準」により撮影したものを指す。

第3条（電子データの作成）

電子データは、国土交通省版の「デジタル写真管理情報基準」に基づいて作成するものとする。

第4条（提出方法）

納品は要領に基づいて作成した電子データを電子媒体（CD-R）で2部提出する。
なお、納品の際には事前にエラーチェックを行い、エラーが無いことを確認した後、ウイルス対策を実施したうえで納品するものとする。

第5条（定めなき事項）

本仕様書および共通仕様書に定めのない事項や疑義が生じた場合は、必要に応じ監督員と協議するものとする。

情報共有システム（ASP）の活用に関する特記仕様書

第1条（情報共有システムの活用）

本工事は、発注者及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システム(ASP)の対象工事である。実施にあたっては「藤枝市における情報共有システム活用要領」及び「藤枝市における情報共有システム活用の手引き」に基づき実施する。受注者は、情報共有システムの利用の有無を発注者と協議し決定する。利用する場合に必要な事項を以下のとおり定める。

第2条（システムの選定）

受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、発注者と協議し承諾を得なければならない。利用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。

- ・「土木工事」の場合

工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件 （最新版）

（国土交通省）

- ・「建築・建築設備工事」の場合

工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件 営繕工事編 （最新版）

（国土交通省大臣官房官庁営繕部 整備課施設評価室）

第3条（利用契約）

発注者及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーID数やワークフロー機能の対象者等については、「事前協議チェックシート」に基づき、担当監督員と協議するものとする。

第4条（費用負担）

情報共有システムを利用する発注者及び受注者の費用は、情報共有システムへの登録料及び使用料であり、設計図書における経費のうち、共通仮設費の率分（技術管理費）に含まれるものとし、受注者の負担とする。

遠隔臨場の試行に関する特記仕様書

本工事（業務）は、遠隔臨場の試行の対象であり、受発注者間の調整により、遠隔臨場を実施することができる。

（定義）

第1条 遠隔臨場とは、建設現場において、モバイル端末等による映像と音声の双方向通信を用いた立会・段階確認及び検査のことをいう。

（適用）

第2条 遠隔臨場は、受注者がモバイル端末等で撮影した映像と音声を監督員又は検査員等にリアルタイム配信を行い、双方向通信により相互に確認を行うことにより、必要とする情報の入手が可能と監督員又は検査員が判断した場合に限り、臨場又は実地に替えることができるものとする。

（実施方法）

第3条 受注者は、遠隔臨場を行う場合、以下の作業を実施する。

（1）事前調整

受注者は、監督員と遠隔臨場の実施日時、適用（確認する項目・内容）、仕様（使用する機器・アプリケーションまたはサービス）、その他必要な事項について調整する。なお、電話、メール等での調整を可とする。

（2）実施記録

受注者は、遠隔臨場が行われた証拠として、通信履歴の画面キャプチャ（写真）、通話中の監督員又は検査員の映像を含む写真等のいずれかの記録を行うものとする。

遠隔臨場が行われた内容の記録は、監督員又は検査員の臨場又は実地に替えて黒板に遠隔臨場であることを明記した写真により行うものとする。

（実施手続）

第4条 遠隔臨場は、以下の手順により実施する。

（1）事前調整

受注者は、遠隔臨場の実施について、監督員と事前調整する。

（2）立会・段階確認、検査の申請

受注者は、遠隔臨場を実施する場合、段階確認・立会願（第2号様式）の確認項目欄又は検査依頼書の検査の種類欄に遠隔臨場であることを明記する。実施日時等の取扱いは、臨場の場合と同様とする。

ただし、監督員又は検査員が臨場の必要があると判断した場合は、遠隔臨場による申請を行った場合においても、臨場により実施するものとする。

（3）立会・段階確認、検査の実施

受注者は、実施予定日時に、監督員又は検査員に対して通信を開始して実施する。

ただし、監督員又は検査員が必要とする情報が得られないと判断した場合は、遠隔臨場を中止し、通常の臨場による確認を実施するものとする。

（4）立会・段階確認、検査の確認

受注者は、遠隔臨場による立会・段階確認を実施した場合、段階確認・立会願（第2号様式）の確認書に、実施記録を添付し監督員に提出するものとし、遠隔臨場による検査を実施した場合は、検査終了後速やかに実施記録を監督員経由で検査員に提出するものとする。

(機材等の手配・仕様)

第5条 受注者は、以下の項目により遠隔臨場に必要な機器等を準備するものとする。

- (1) 受注者は、現場で必要となるモバイル端末及び通信回線等の準備を行う。
- (2) 発注者は、発注者が保有するインターネット通信が可能なタブレット端末等を利用する。
- (3) 利用するアプリケーションまたはサービスは、発注者が保有するタブレット端末等で利用が可能であり、かつ、発注者の利用に際して新たな費用負担が生じないものを受注者が選定する。

(費用)

第6条 受注者が行う機材等の手配に要する経費は、共通仮設費（業務の場合は諸経費）の率分に含まれるものとし、別途計上しない。

(調査への協力)

第7条 受注者は、遠隔臨場を実施した場合、有効性や効果、課題等について把握するためのアンケート調査等に協力する。

交通誘導員の配置に関する特記仕様書（標準）

（交通誘導員の設計計上数量）

第 1 条 本工事の施工に際しては、設計書に計上した交通誘導員の人員を配置する。なお、配置場所等については、監督員と協議するものとする。

（安全対策）

第 2 条 受注者は、工事の施工に当たって交通整理等を行うときは、公共工事の円滑な執行に資することを理解し、事故のないよう適正に工事を実施しなければならない。

2 受注者は、工事の施工にあたって、交通整理等を行うときは、配置人員、配置位置及び配置期間等について、監督員と協議を行わなければならない。また、計画に変更が生じた場合も同様とする。

3 受注者は、工事の施工にあたって交通整理等を行った場合、工事完了時に実施内容の判る写真、交通誘導員勤務実績表を併せて提出しなければならない。

（その他）

第 3 条 交通誘導員は、原則、警備業法（昭和 47 年法律第 117 号一部改正平成 16 年法律第 50 号）第 4 条による認定を受けた警備業者の警備員を配置するものとする。

2 現場代理人は、交通誘導員について、住民等から意見があった場合は、速やかに監督員へ報告し、協議を行うものとする。

3 現場代理人は、交通誘導員の点呼を取り、交通誘導員の健康状態や交通整理状況を常時把握し、異常のあるときは速やかに警備会社へ連絡し、交替を要請するとともに、交替要員が現場に到着するまでの間、交通誘導を要する現場作業は控えるものとする。

4 現場代理人は、施工区域内において、複数の他工事が重複する場合は、事故の未然防止及び安全対策に万全を期するとともに、他工事との調整等を図るなかで、交通誘導員を適正に配置するものとする。

個人情報取扱特記仕様書

1 基本的事項

受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適切に取り扱わなければならない。

2 秘密の保持

受注者は、この契約による事務に関して知ることができた個人情報をみだりに他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

3 収集の制限

- (1) 受注者は、この契約による事務进行处理するために個人情報を収集するときは、事務の目的を明確にするとともに、事務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。
- (2) 受注者は、この契約による事務进行处理するために個人情報を収集するときは、本人から収集し、本人以外から収集するときは、本人の同意を得た上で収集しなければならない。

4 利用及び提供の制限

受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的のために利用し、又は第三者に提供してはならない。

5 適正管理

受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

6 複写又は複製の禁止

受注者は、この契約による事務进行处理するために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を、複写し、又は複製してはならない。

7 再委託の禁止

受注者は、この契約による事務を行うための個人情報の処理は、自ら行うものとし、発注者が承諾した場合を除き、第三者にその処理を委託してはならない。

8 資料等の返済等

受注者は、この契約による事務进行处理するために発注者から引き渡され、又は受注者自らが収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等は、事務完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

9 従事者への周知

受注者は、この契約による事務に従事している者に対して、在職中及び退職後において、その事務に関して知り得た個人情報を他に漏らしてはならないこと及び契約の目的以外の目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に関し必要な事項を周知するものとする。

10 実地調査

発注者は、必要があると認めるときは、受注者がこの契約による事務の執行に当たり取扱っている個人情報の状況について、随時実地に調査することができる。

11 事故報告

受注者は、この契約に違反する事態が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

障害者差別解消法等に基づく差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供についての留意事項に関する特記事項

（受注者の責務）

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）第 10 条第 1 項の規定に基づく「藤枝市における障害を理由とする差別を解消するための職員対応要領」(平成 28 年 3 月 11 日藤枝市長決定)第 2 条に規定する不当な差別的取扱いの禁止及び第 3 条に規定する合理的配慮の提供について留意すること。